

花穂の状況を確認する組合役員（広島県三次市で）



「ピオーネ」

生育順調

広島・三次
生産組合

【広島・南部】三次市東酒屋町の三次ピオーネ生産組合は、3月

の寒波到来を受け、ハウスブドウ「ピオーネ」の生育調査を実施した。7月上旬出荷を目指すハウスで、当初よりは生育が遅れたものの花穂の数や充実具合は順調で、例年並みの生育進捗であること

が確認できた。今シーズンは年明け以降の気温が高めに推移しており、当初は例年より7日程度早い生育だったが3月下旬の寒波で生育進捗が鈍化。さらに園地全体に5〜10センチの積雪があり、施設の倒壊を防ぐために組合員は雪降ろし作業に奔走した。高止まりしている燃料費を抑えるため、ビニールの多重被覆やヒートポンプを活用しながら、温度を高めに保って生育を促した。

組合では花穂整形が本格化。代表者らはスポット的に作業を実施しながら花の充実具合を確認していた。組合の敷本忠洋組合長は「コストが上がり、気候変動が激化する中でも安定して高品質ブドウを作ることに苦心している。細心の注意を払いながら作業を進めたい」と話す。JA広島果実連によると、加温開始期でのハウス生産量は例年並みの230トを見込んでいる。